

# 環境報告書 2019

ENVIRONMENTAL  
REPORT 2019



ミスミグループ  
株式会社 駿河生産プラットフォーム

# INDEX

ごあいさつ	01
事業内容	02
環境方針	03
環境マネジメント	04
環境目的・目標と実績	06
事業活動に伴う環境負荷	07
環境活動への取組み	09
会社概要	10

# ごあいさつ

---

社会の持続的発展を実現するためには、地球温暖化対策、生物の多様性保全を始めとする重要な環境課題の解決には、人類が叡智を集め真剣に取り組まなければならぬ時代です。

2015年に国連において採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、国際社会が持続可能な開発を実現するための重要な指針として、17の目標「持続可能な開発目標(SDGs)」を定めました。

駿河生産プラットフォームにおきましても、「テクノロジーとエコロジーの共存」をスローガンに環境負荷の少ない商品開発及び生産活動を推進しております。

本年度は、実践的な環境改善活動を推進する事を目的に、環境委員会を通じ「環境マネジメントシステム」機能を強化し、効果的に運用してきました。また、グループ全体の環境パフォーマンス状況をモニターし、その進捗状況を定期的に国内外で共有、環境課題に対する意識の向上を図ってきました。

当社は、日本、中国、アジアとグローバルにものづくりを行っている企業としての社会的責務を自覚し、持続可能な社会の実現に積極的に貢献して参ります。

今後とも当社の事業につきまして、ステークホルダー皆様からなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 遠矢 工

# 事業内容



あらゆる工場において、その構築の成否が競争力に直結するFA（ファクトリー・オートメーション）。自動化部品製造では、そうした生産ラインを支える様々な部品を開発、製造しています。主要製品は、例えば半導体ウエハの移送工程や産業ロボットの可動部などで使われる、いわゆる機構系の部品。なかでも、リニアガイドやリニアプッシュといった直動システムに関わるものについては、非常に高い技術を誇っています。



プレス製造では、プレス機による金属塑性加工に使用される金型関連部品の開発、製造を行っています。パンチ&ダイ、ガイド、スプリングなど、多種多様な製品を扱っており、なかでも実際に金属の成型を行う部分であるパンチ&ダイ（標準品）では、国内トップクラスのシェアを確保しています。プレス金型関連製品の製造は、駿河精機設立の2年後、1966年から手掛けている主要事業であり、コアコンピタンスである“精密加工技術”を培ってきた当社の土台。現在は切削、研削、研磨といった加工技術に加え、製品開発、設計、品質管理など、すべての事業プロセスに磨きをかけ、決して他社が真似できないトータルな技術力の獲得に努めています。



OST (Optical & Scientific Technology) 製造事業は、駿河生産プラットフォームが20年以上にわたり培ってきた精密加工技術を基盤に、成長産業である携帯端末、医療機器、通信機器、映像機器市場に向け、競争力の高い製品を供給し続けています。特に、製品や部品の加工作業の際の位置調節に不可欠な「位置決めステージ」では国内トップクラスのシェアを誇り、欧米、アジアを中心に成長を続けています。公的研究機関や大手電子機器メーカーなどの研究開発市場向け高精度部品から、生産市場向け精密位置決めユニットや、光学技術を駆使した計測・検査装置など、製品のシステム化によるソリューションビジネスまでグローバルに展開しています。

# 環境方針

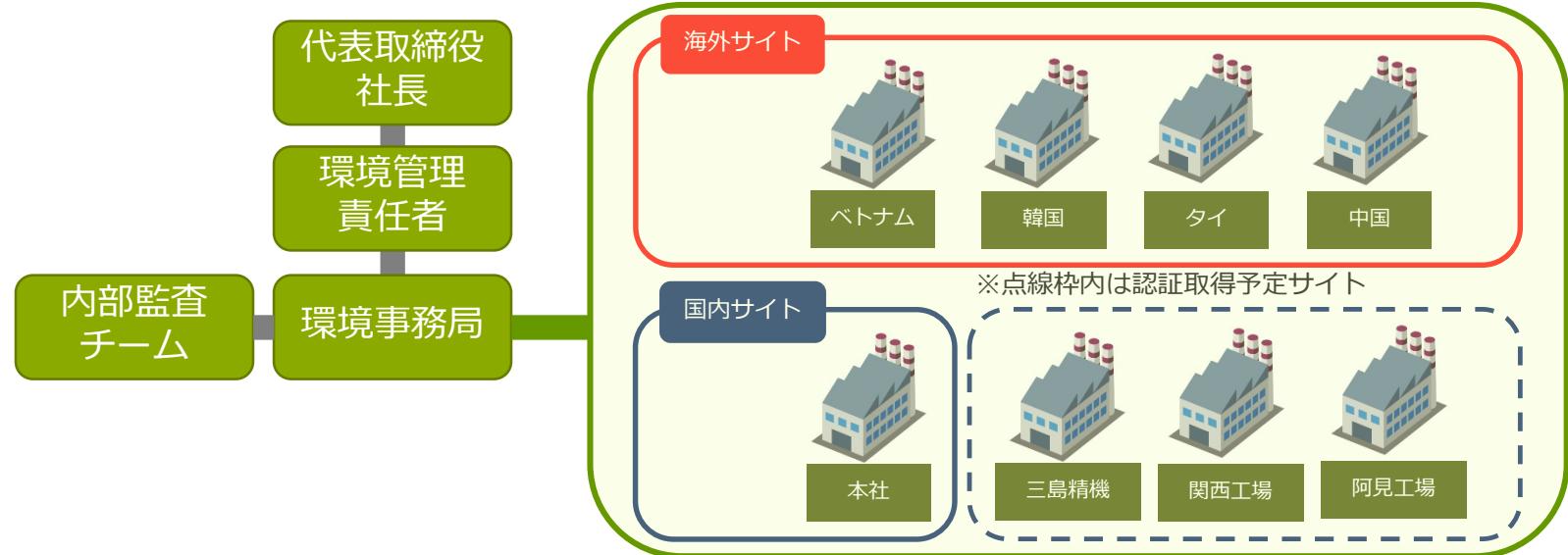
駿河生産プラットフォームは「テクノロジーとエコロジーの共存」をスローガンに関係者への環境教育を行い、環境関連の法規制及び駿河生産プラットフォームが同意するその他の要求事項を遵守します。以下の6つの項目について自主ガイドラインを設け、環境負荷削減に向けて、一層の環境保全に努めます。尚、定期的に環境影響評価を実施し、環境目的・目標を定めて環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。環境方針は一般に公開します。

## 環境行動方針

1. 環境負荷の少ない商品開発及び生産活動
2. 環境に関する法規制及びその他の要求事項の順守
3. 有害化学物質の適正な管理と使用
4. 環境汚染の予防
  - 1) 油類・有害物質の漏洩
  - 2) 騒音の敷地境界線からの漏れ
5. 廃棄物のリサイクル率の向上
6. 省エネの推進

# 環境マネジメント

## 環境管理体制



## 環境活動体系



- Plan**  
・環境側面  
・法的及びその他の要求事項
- Do**  
・運用管理  
・緊急事態への準備及び対応  
・コミュニケーション  
・力量・教育訓練及び自覚

- Check**  
・監視及び測定  
・順守評価  
・内部監査  
・マネジメントレビュー

- Action**  
・是正処置及び予防処置  
・改善事項の水平展開

# ISO14001取得状況



駿河生産プラットフォームは、このたび、本社および海外工場を対象として、環境マネジメントシステムISO14001：2015の再認証審査を受け、2019年10月29日付けで承認されました。

## 環境教育

資格者	保有者数 (前年度保有者数)	資格者	保有者数 (前年度保有者数)
危険物取扱責任者	33 (33)	特別管理産業廃棄物管理責任者	1 (2)
有機溶剤作業主任者	17 (12)	第一種作業環境測定士（有機）	1 (1)
第一種衛生管理者	8 (10)	公害防止管理者	1 (1)
防火管理者	4 (8)	X線作業主任者	1 (1)
第一種圧力容器取扱作業主任者	3 (5)	毒劇物取り扱い責任者	2 (1)
特定化学物質作業主任者	8 (3)	エネルギー管理士	1 (1)

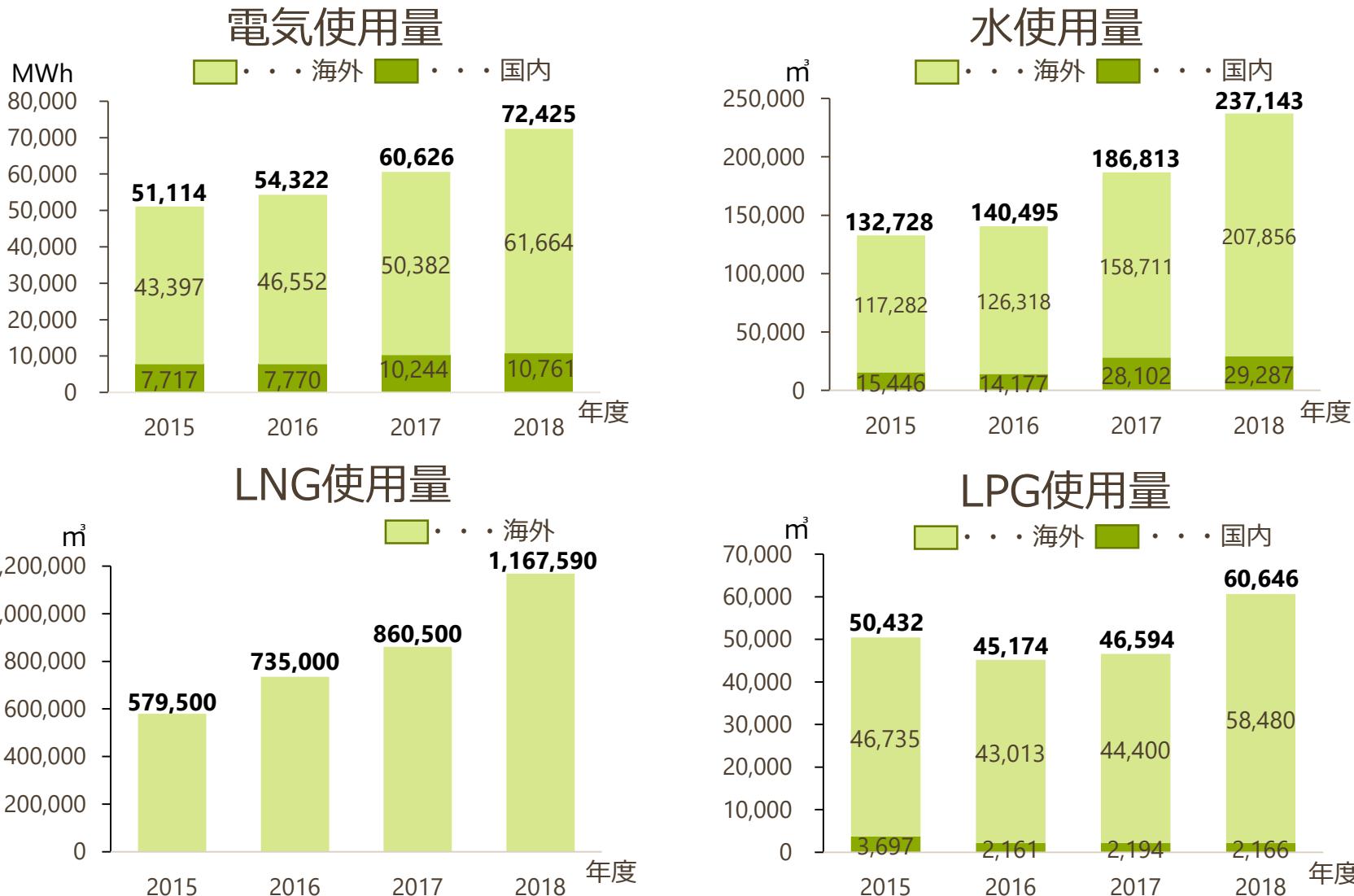
# 環境目的・目標と実績(18年度)

No.	項目	環境目標	活動実績	評価
1	電力消費量 (原単位)	国内 0.44 MWh/百万円以下	昨年度比1%削減	○
		海外 100% (目標達成拠点数/拠点数)	稼働設備増設により 電力消費量が増加	×
2	廃棄物排出量 (原単位)	国内 44.49 Kg/百万円以下	昨年度比11%削減	○
		海外 100% (目標達成拠点数/拠点数)	生産設備増設により 廃棄物排出量が増加	×
3	リサイクル率	82.5% 以上	リサイクル率 80%以上を維持	△
4	騒音苦情件数	0件	近隣からの苦情無し	○
5	漏洩事故件数	0件	漏洩事故無し	○

【評価定義】○：目標に対し達成 △：目標に対し 0~5%未満 ×：目標に対し 5%以上未達

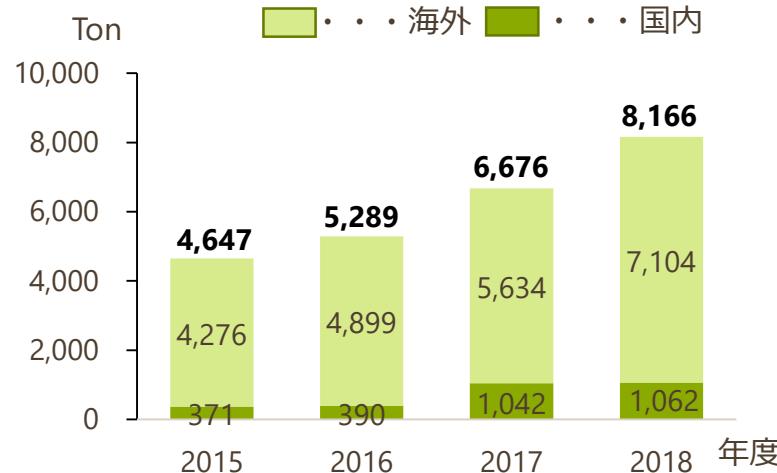
# 事業活動に伴う環境負荷

## INPUT

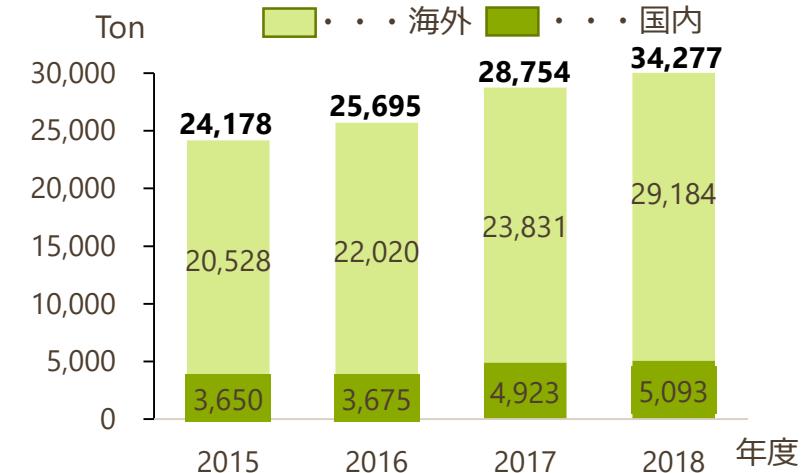


## OUTPUT

### 廃棄物量

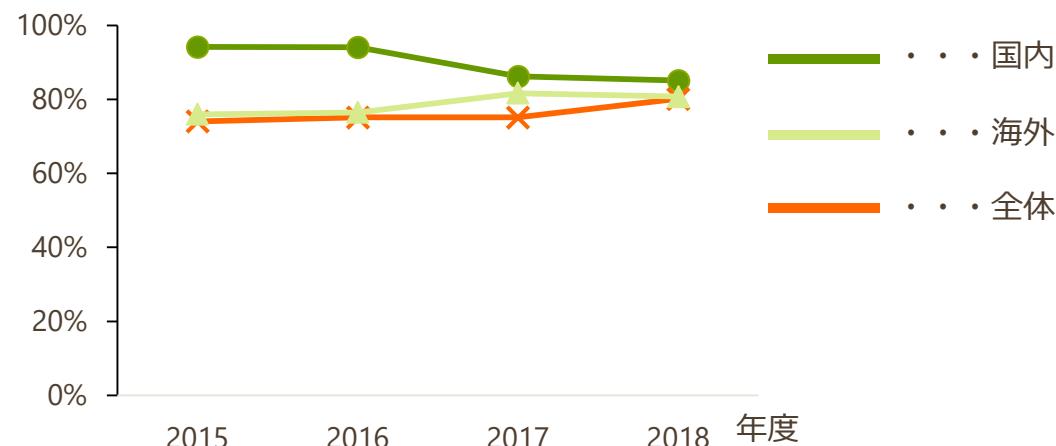


### CO2排出量



## リサイクル実績

### リサイクル率



# 環境活動への取組み

## 廃棄物排出量削減



リサイクルを推進していくために、廃棄物の適切な分別を行っており、全社ではリサイクル率80%以上を維持しています。

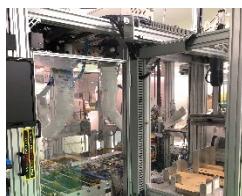
また、製造工程で生じる不良ロス削減のために、新たな設備の導入や工程の改良に取り組んでいます。

## タブレット端末の導入により、ペーパーレス化を推進



タブレットを導入し、データの電子化によるペーパーレス化を進めています。ペーパーレス化による書類の削減や文書量を半減させることで、廃棄物削減及び業務改善効果を期待しています。

## ロボット導入による梱包資機材の削減と無人化



自動梱包ロボットを導入し、梱包材料の簡素化と作業資材の削減に取り組み、環境負荷低減を図ると同時に、作業の無人化を実現しました。

## 「RoHS 指令／グリーン調達対応

RoHS指令、グリーン調達に対応するため、事業ごとに材料・部品の制限・禁止物質の調査を行い代替化を推進しています。例えば精密位置決めステージは組込まれる黄銅部品を低力ドミ材料へ代替することによって適合を図っております。特注品対応と併せ、順次適合製品の販売を計画しています。また、地球環境保全が地球のために最重要であると認識し、当社の企業活動の領域において地球環境の保全と向上に誠意を持って配慮し、行動いたします。

# 会社概要

会社概要	2019年3月末現在
事業内容	自動化部品関連事業、精密金型部品関連事業、光関連機器関連事業
本社	〒424-8566 静岡県静岡市清水区七ツ新屋505 Tel : 054-344-0311( 代表) Fax : 054-346-1053
URL	<a href="http://www.suruga-g.co.jp/">http://www.suruga-g.co.jp/</a>
創立	1964年5月8日
代表者	代表取締役社長 遠矢工
資本金	491 百万円
従業員数	5,652名 (うち国内勤務者897名)
主要取引先	株式会社ミスミ・駿河精機株式会社・他
取引銀行	みずほ銀行 清水支店 静岡銀行 清水支店



駿河生産プラットフォームは、ミクロン単位の精度が要求される「精密加工技術」をベースに事業を展開しています。国内トップクラスのシェアを誇るパンチ＆ダイ部品等を手掛けるプレス金型部品製造事業をはじめ、モールド金型部品製造事業、自動化部品製造事業、光関連機器製造事業が主要事業となっています。

いずれも最先端の産業・技術を支えるため、「最先端の一歩先」を行くことが使命です。またグローバル展開にも力を入れており、現在、ベトナム、韓国、中国、タイ、インドに拠点を構えています。今後も、開発や生産の技術はもちろん、総務、人事、財務、情報システムなどすべてにおいて「たゆみない革新」を続け、よりいっそう質の高い経営を目指します。